

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念及びホームの理念を事務所に掲示し、朝礼、職員会議等で唱和し、共有し実践している。	「おだやかに、なごやかに、安心して」という理念を基に家庭的な雰囲気支援することをホームの目標として掲げ実践に取り組んでいる。職員全員が「職員必携」という小冊子を持ち、常に理念や方針を振り返り、確認できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の催し物に出掛け交流の場を持っている。イベントなどで地域のボランティアを招き交流を持てる機会をつくっている。	地区の文化祭などの見学に出掛けている。太鼓、フラダンス、舞踊など様々なボランティアの来訪もある。中学生の体験学習、短大生の実習の受け入れなども行っている。地域事業としての地域包括支援センター主催による「介護者の集い」がホームの和室を利用し年3回行われており、ホーム長も参加し介護者の方との情報交換を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生などの福祉体験の受け入れを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で出された意見等を職員に伝達し職員会議の場で検証しサービスに反映させている。	利用者代表、家族代表、常会長、民生委員、役場福祉課職員、地域包括支援センター職員、ホーム関係者が参加し2ヶ月に1回開催されている。ホームのイベントに合わせて開き利用者の様子を見ていただくこともあり、ホームの状況を報告し、意見などを頂き運営に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者様の状況や様子を電話や役場へ行き伝えている。また、運営推進会議のメンバーにもなっている。	地域ケア会議に参加し情報交換を行っている。町内の高齢者サロンで認知症の啓蒙活動なども行い理解を頂いている。介護認定調査には職員が立会い、日頃の様子など、情報を提供している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が常に心掛けており、会議や勉強会の場で定期的に話しを出し拘束を行わないケアを行っている。	日中、玄関は施錠されていない。各居室は掃き出し窓で外はテラスとなっていることから外出する方もいるが、職員が察知し声掛けで散歩に誘い、本人が十分納得してからホームに戻るようにしている。「身体拘束・虐待について」をテーマに毎年研修会を開いており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行う、リスク委員会からの報告や職員会議等で話し合いの場を持ち防止に努めている。			

グループホームさくほ愛の郷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要がある家族、関係者には話しをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	変更時なども、書面や口頭で説明を行い理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	夏祭り・敬老会・忘年会には家族の参加も呼びかけ家族会の場合、意見や要望を聞いている。また、面会時に意見要望をきき、カンファレンスや職員会議の場で伝達している。	自ら意見や要望を伝えることができる利用者が半数ほどで、後の方は表情などから汲み取り選択出来るように声掛けしている。毎月、ホーム全体の便り「さくほ愛の交差点」を発行し、また、「ホーム便り」で担当職員から利用者一人ひとりの普段の様子を書き伝え家族との意思疎通を図っている。家族面会時には声掛けし要望等をお聞きしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長訓示や職員会議、個別面談で意見や提案を聞き、反映させている。	職員全体会議と研修会を毎月1回開き、意見や要望を出し合い運営に活かしている。キャリアパス制度を導入しており、目標を掲げ自己評価を行い、管理者との面談も年2回行っている。また、法人としてストレスチェックを年1回実施し、職員の心理面の健康状態も把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入し自己評価・目標を掲げ向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内での勉強会の実践、法人内外研修への参加。各種資格の取得についても推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐久圏域グループホーム連絡会の研修会や相互訪問を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の想いや暮らしぶりを早期に知り、本人の声を聴くようにしている。本人の安心を確保する為にも傾聴しコミュニケーションをとり関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時や、契約時などに家族の想いなどを十分に聞き、信頼関係の構築に努めている。また、面会時にも常に声を掛け日頃の様子を話し、家族からの想いや情報を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族等との話し合いの他、担当ケアマネジャーや利用していた事業所から書面や口頭による情報を得て対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯、食事作りや食器拭きなど作業を共に行っている。個々の性格や状況により利用者様主体の暮らしが出来るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベント時に家族参加も呼びかけ、一緒に過ごす時間作りや、面会時に本人の様子を報告し情報共有をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで使っていた事業所の行事に参加したり、町や地区の行事などに出向き今まで馴染みのあった近所の方々との交流をしている。また、自宅へ様子を見に出掛けたり、使っていた美容室等も行き関係を持ち続けている。	出身地区の高齢者サロンからお誘いがあり、参加した時に友人とおしゃべりを楽しんでいる利用者がいる。お盆や正月に一時帰宅されたり、2ヶ月に1回外泊される方もいる。家族とともに馴染みの美容院や外食に出掛ける利用者もあり、慣れ親しんだ関係が継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶、レクリエーションなど入居者様同士が触れ合う機会がある。食事作りや掃除などを通じてお互いのユニットを行き来し入居者様同士で声を掛け合い雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人又は家族にお会いした時は積極的に声を掛けその後の様子や、その時の悩み等はないか伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスでは本人の想いを大切にしたいケアの方針を検討している。困難な場合はケアマネ中心に対応方法を常に検討している。	日々の生活の中で個々に声掛けし希望、要望をお聞きしている。可能な時には1対1で外出することもある。誕生日には希望に沿い、好きなものを食べられるようにしている。また、つぶやき等も記録に残し職員間で情報の共有を図り希望に沿った支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に家族から情報を得たり、担当ケアマネジャーや利用していた事業所などからも聞いている。また、本人とのコミュニケーションの中からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の有する力を共に生活する中で見つけている。毎日のバイタル測定や食事、排泄などの情報を全職員が共有している。日々の変化についてはその都度引継ぎ周知している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスは毎月1回あり本人、家族、担当職員の意見を取り入れた話し合いを持っている。それらの意見を入れた計画を立てている。	担当職員はいるが、シフトによってユニットを固定せずケアに入るため、その日の職員により目標が書かれたシートに○×で記入しカンファレンスシートで担当者が毎月評価しており、全職員が利用者全員の状態及び介護計画を把握している。長期目標は1年、短期目標は半年で見直しているが、状態変化に合わせて随時の見直しも行っている。計画の見直し時には本人や家族の意向を基に担当職員を中心に職員全員で話し合い、計画作成担当者が作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には日々の様子や気づきなどの記録がされており、申し送りやカンファレンス等で情報を共有し見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況観察や家族との話し合いの中でニーズを把握し、これに極力添えるように職員間で協議し、可能な範囲で柔軟に対応している。		

グループホームさくほ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑作りや小学生との交流、入居者様の趣味の把握を行い地域の行事に参加したり、地域のボランティアさんに来所いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの主治医に月1回往診していただいている。受診が必要な場合は受診の前後に家族への連絡を入れている。	契約時に主治医の確認をしており、利用前からの主治医を継続される方、協力医に変更する方など希望に応じている。各利用者には協力病院の数名の主治医が関わりを持ち、それぞれに月1回の往診で適切な医療が受けられるようになっている。状態によってはホームの看護師が受診に付き添い情報提供しており、職員が付き添った場合には管理者や看護師から家族に結果報告もされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員間の情報交換をした上で支援方法を検討している。また職場内の看護師や協力医療機関の看護師と連携をとり、報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が交替で面会に行き状況把握をしている。医師や看護師と情報交換をし早期に退院出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた場合、家族、主治医等と話し合い支援している。また、終末期については、今までに例がないのでこれから、家族や本人、主治医、職員間で話し合いを行い希望に添った対応を心掛けたい。	利用契約時にホームの指針を基に説明している。重度になった時には家族や医師、看護師でもあるホーム長との話し合いを行い、同意をいただき、看取りについての計画も立て、本人や家族の希望に沿えるよう支援している。看取りも行われているが、利用者に大きな影響を及ぼすことなく見送りも行われたという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で行う救急法勉強会に参加するほか、ホームでの勉強会も行い、有事に対応出来るように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜それぞれを想定して訓練を行っている。その都度反省会も行い改善に努めている。また、消防署の協力を得て消火器等の訓練も行っている。	年2回昼・夜想定避難訓練が行われている。1回は消防署員立会いの下利用者全員が参加し、避難誘導の助言も頂き実施している。訓練後は反省会を開き問題点を確認し、次回に活かしている。徘徊者の検索には近くの店や近所の方の協力を得られるように体制が整備されている。	訓練時には水害・地震などの訓練も視野に入れ話題にされているが、実際に想定まで至っていないため、今後あらゆる角度からマニュアルなどを見直し訓練にも活かし、防災グッズ・備蓄などの確認もし非常時に備えられることを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気持ち良く、安心して生活が送れるように一人ひとりにあった声かけを行っている。声のボリュームを気を付けたり、丁寧な声かけをするように気を付けている。また朝礼や会議の場でも常に話をしている。	「おだやかに、なごやかに、安心して」をホームの理念としており、職員は常に利用者本位を旨とし声掛けをしている。耳が不自由な方にも遠くから大きな声をかけるのではなく、近くに寄り添い話しかけをしている。法人として年1回接遇研修を行っており、参加した職員がホーム内研修を実施し尊厳やプライバシー保護について職員全員に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が選択できる様な声かけをしている。また、希望を聞き出せる様な声かけをし、入浴・外出などについても自己決定出来る様に声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の大まかな流れは決まっているが、その日その時に希望があればこれを尊重し希望に添った対応をするように心掛けている。日々の体調を把握しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	薄着・厚着・着たい服などの声かけをしながら好みの身だしなみができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや食器拭きなど一緒にやっている。また、一緒に準備したり食事をする事で味や好みを知る事が出来る。それぞれの誕生日には好みの物を作りお祝いしている。	殆どの利用者は常食で自分で食べられる。病気によっては病院の管理栄養士と相談し対応している。利用者も職員と一緒に食事の下ごしらえ、食器拭きなどを行っている。昔ながらの干し柿も作り、夏は玄関で流しソーメンなどを行い、季節や行事を大切に食事が楽しみとなるように取り組んでいる。ホーム前には畑があり、職員の「畑周り委員会」もあり、作業の指示・管理が行われている。また、色々な野菜が作られ、利用者と収穫を楽しみ、小学生との芋掘りなども楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	むせがある方にはとろみを使用している。水分をなかなか摂取していただけない場合はゼリーなどで対応している。常食・きざみ・ミキサーもそれぞれの希望や状態に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけ・見守り・介助を行っている。		

グループホームさくほ愛の郷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎月オムツやパットの使用状況を話し合い検討している。排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握し対応している。	排泄チェック表により一人ひとりのパターンを把握しており、トイレでの排泄を大切に声掛けし誘導を行い支援している。布パンツで自立している方もいる。ポータブルトイレ利用の方はコールを持っており、コールに合わせ職員が伺い、本人希望のポータブルトイレでの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜・きのこ類・果物・乳製品等、便通を良くする食物を取り入れている。また、腹部マッサージやオムツ使用者でも便意ある場合はトイレに座っていただき排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否がある方には無理強いせず柔軟に曜日や時間帯の変更を行っている。時には近隣の温泉施設へ出かけリフレッシュしたり、日々の生活に変化をつけている。	A棟はジャグジー風呂でB棟は檜風呂となっている。利用者がジャグジー風呂を好まれることからB棟の利用者もA棟のお風呂を利用している。週2回を基本とているが、拒む方には曜日、時間などを変更しお誘いしている。状態により職員二人体制で対応している。季節感を大切に菖蒲湯、ゆず湯なども行っている。誕生日には希望により担当職員と日帰り温泉を楽しまれる方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具を天日干ししたり、リネン交換を適時行い気持ち良く眠れるように支援している。休息も自由であり職員は入居者様のペースを把握している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会で薬の理解を確認し変化に応じて見直しなどを行っている。服薬の際には3度の確認を行い誤薬防止も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションを工夫したり、季節の行事を取り入れている。食事や掃除、洗濯など、得意な事出来る事を役割分担している。外出希望や適時に対応し変化のある生活を送っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の催し物に近隣市町村へも出掛けたり、外食、買い物、散歩等、四季折々戸外へいつでも出掛けられるように心掛けている。車だけではなく、小海線利用もしている。	イベントの年間計画が立てられ、それぞれ担当職員が中心となり行われている。理事長宅の栗畑で栗拾いも楽しめたという。今年はミニ旅行として車で小諸の公園に行き、帰りは小海線で近くの駅まで電車の旅を楽しめた。近くにスーパーや道の駅もあり、散歩や買い物に出掛け外気に触れるようにしている。	

グループホームさくほ愛の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている事で安心される入居者様もいらっしゃるの理解している。希望により所持されたり自由(買い物など)に使えるようにしている。無駄遣いの無いよう助言している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は掛けたい時に掛け、ゆっくり会話が出来る様に職員はその状況により席をはずすなどしている。手紙は受け取る事はあがるが返事を書くまでには至らないが年賀状は書かれる方もいるので支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、季節毎の飾りつけなどをして工夫している。入居者様と共に掃除をする事で気持ちの良い環境作り心掛けています。	事務所を挟んでA棟とB棟に分かれており、それぞれの棟に入ると直ぐ広いリビングになっている。事務所南は広いテラスで両ユニット合同のイベントや交流ができる広いスペースとなっている。各居室も掃き出し窓で外にウッドデッキがあり、全居室や交流スペースにつながっており自由に過ごせることができる。ユニットの中心には明り取り用の中庭があり、また、和室もあり真ん中に炬燵も用意され、自宅のような雰囲気を感じさせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やホールを利用したり、それぞれの居室を行き来している。テラスも良い交流の場となっており、それぞれが自由に過している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた家具(椅子やテーブルなど)を使用している。絵や写真なども自由に掲示している。	各居室には洗面台や広い収納スペースが設けられており、馴染みの筆筒やソファなど思い思いのものが持ち込まれ、落ち着いて過ごせるように工夫されている。各居室は掃き出し窓で明るく、外にはウッドデッキがあり自由に出入りしたり日向ぼっこも出来る、居心地の良さが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室から畑やテラスに自由に出入りが出来る造りになっている。トイレや風呂、居室には絵や名前があり分かりやすい様に工夫している。		